

● 暮らし・人・環境を見つめて

i land fill

ー フェニックス広報誌 ー

CONTENTS

INFORMATION

平成20年度予算・事業概要
環境イベントでたのしく事業をPR!
「こんな島あったらいいな」絵画コンテスト

シリーズ ゴミのゆくえ(最終回) 処分場搬入編
海中さんぽレポート②

リレーエッセイ 大阪市立自然史博物館館長 山西良平



INFORMATION

平成20年度予算・事業概要

平成20年度予算は、下表のとおり予算規模としては総額271億円、前年度当初予算比25.6%減となりました。減少の主な要因は、平成20年度末の供用開始をめざし進めております大阪沖埋立処分場の施設整備が、最終局面を迎え減少に転じたことによるものです。

収入面では、引き続き管理型産業廃棄物の高水準な事業収入を見込んでおりますが、その一方では減量・リサイクル化の進展等に伴う一般廃棄物・上下水汚泥の受入量の減少傾向がより鮮明になるものと予測しております。

また、支出面では、神戸沖埋立処分場の陸域化に伴う埋立

費用の増大により廃棄物処理費用が前年度比12.1%増となっております。

今後は、平成20年度末の大阪沖埋立処分場の供用開始に伴い、相当額の廃棄物処理費用の増大などにより、損益・資金収支の両面において厳しい経営局面を迎えることが予測されています。こうした状況に鑑み、平成20年度予算におきましても、前年度に引き続き尼崎沖・神戸沖各処分場閉鎖後の維持管理積立金を、好調な事業収益を引当として可能な限り前倒しで積み立てるなど、将来に亘り持続可能な経営基盤の確保へ向けた措置を積極的に盛り込んで編成いたしました。

■収入支出予算

項 目	支出の部	
	20年度予算	19年度当初
廃棄物処理費	10,623	9,477
施設建設費	9,135	19,589
一般管理費	1,173	1,799
借入金返済支出	2,148	2,540
事業外支出	3,989	3,000
予備費	5	5
合 計	27,073	36,410

(単位：百万円)

項 目	収入の部	
	20年度予算	19年度当初
事業収益	16,506	14,686
受託事業収入	8,305	19,447
借入金	1,070	915
事業外収入	1,192	1,362
	27,073	36,410

① 大阪沖埋立処分場の供用開始に向けて

廃棄物埋立護岸については、現在、東護岸を除き概成しており、平成20年度は、東護岸の建設を図るとともに遮水矢板の打設を行います。また、排水処理施設は現地に設置しており、平成20年度は、廃棄物埋立作業に必要な浮桟橋等の製作・設置を行うとともに、管理施設等の建設を行います。

② 次期処分場計画の検討・推進

将来的な大阪湾圏域の廃棄物最終処分場の確保に向け、既設処分場の延命化方策を検討するとともに、国、関係地方公共団体、港湾管理者と連携し、次期処分場計画の実現に向けた取組みを進めます。

③ 大阪湾圏域の環境保全・創造の取組み

大阪沖埋立処分場の供与開始を控え、環境影響評価に基づく受入前検査として、平成20年度より護岸外周と周辺海域における水質、底質及び悪臭の調査を実施します。

また、各処分場、各積出基地周辺において、引き続き環境監視を行います。

さらに、廃棄物埋立護岸に傾斜型護岸を採用するなど、海域環境創造の取組みを行っていますが、平成20年度は、尼崎沖埋立処分場の前面海域において水質改善の検討を行うなど、海域環境の回復・創造に積極的に取り組んでいきます。

環境イベントでたのしく事業をPR！

大阪湾センターは、近畿2府4県175市町村から排出される廃棄物を安定的に処理し、地域環境の保全という社会的に大きな役割を果たしています。しかし、環境に配慮した取組みや状況については、あまり知られていないのが現状です。

そこで、府県や市が開催する環境イベント(下表参照)に積極的に参加し、パネルの展示、フェニックスクイズやアンケートを通して、広く一般にセンター事業の紹介を行ってきました。その一つで平成19年10月24日滋賀県長浜市のびわ湖ビジネスメッセでは、「琵琶湖と大阪湾の再生について」と題し、失われた水辺の回復・再生についてのセミナーを開催しました。また、12月8・9日開催の京都環境フェスティバルでは、タレントの森脇健児さんと関西テレビアナウンサー山本浩之さんによる「環境トークショー」を企画し、処分場の大切さや3Rなどについてお話をしてもらい、多くの観衆にセンター事業への理解を深めてもらうことができました。

京都環境フェスティバル2007
山本アナウンサー(左端)と森脇さん(右端)によるトークショー



フェニックスクイズに挑む来場者

イベント名	主催者	開催日時	開催場所
3R推進近畿ブロック大会	環境省	10月5日～7日	草津市内
地球温暖化防止フェアinびわこ・くさつ	草津市	10月5日～7日	草津市内
環境ビジネスメッセ2007	滋賀県	10月24日～26日	長浜ドーム
アジア主要都市サミット	大阪府	10月25・26日	大阪国際会議場
環境フェア	奈良県	10月27日	橿原県立体育館
ひょうごエコフェスティバル2007	兵庫県	10月27・28日	播磨科学公園都市
不法投棄撲滅大会	奈良県	11月7日	奈良市内
京都環境フェスティバル2007	京都府	12月8・9日	京都府見本市会館

今後もより効果的な方法によってセンター事業の紹介を行い、循環型社会の構築に貢献していきたいと考えています。

「こんな島あったらいいな」絵画コンテスト

センターでは設立25周年を記念し、平成19年9月に「大阪湾フェニックス計画『こんな島あったらいいな』絵画コンテスト」を実施しました。495作品もの多数の応募をいただき、ありがとうございました。どの作品も、応募者の努力が十分に感じとれるすばらしい作品でした。厳正な審査の結果、色彩の美しさや豊かさ、自然とのかかわり、物語性などが評価された入賞作品の一部と入賞者の声を紹介します(敬称略)。 ※入賞作品については、センターホームページにも掲載中です。

フェニックス賞(最優秀賞)



「にぎやかな魚たちがいる島」
和歌山市立西和佐小学校 福島海斗(和歌山県)



「風力発電」
堺市立原山台東小学校 中井篤哉(大阪府)



「海の宝物」
尼崎市立梅香小学校 名桐豊大(兵庫県)



入賞者の声

- ★「この賞をもらい、僕と家族は大喜び。僕にもこんなすごい賞がもらえるんだと感動しました。大切な宝物です!ありがとうございました。」
- ★「受賞した事を先生から聞いた時は、うれしかったです。ぼくは、こんなきれいな海で、たくさんの魚たちと泳ぎたいです。」
- ★「最初に入賞の通知を見たときはビックリして、親子でたおれそうになりました。ただごくうれしかったです。」
- ★「自分の絵がゆうしゅう賞とは思えなかったです。うれしかったです。」
- ★「三回書きなおしたかいがありました。ありがとうございます。」

ゴミが土地によみがえる



搬入基地を出発した運搬船は、まず揚陸棧橋に接岸、そこで待機している「大型バックホー(パワーショベル)」を使い、「ホッパー」に陸揚げします。大量の廃棄物を迅速に処理するため、1船の陸揚げを2基のバックホーで行っています。



ホッパーから出た廃棄物は、「フローティングコンベア」と呼ばれる水に浮かんだベルトコンベアで処分場内を移動します。移動距離は最長で約1800m、平均280m/分の速さで移動しています。



ベルトコンベアの最終地点では、「スプレッド」による投入が行われます。GPSにより投入ポイントの位置を計測しながら、処分場内を均一に埋め立てるように投入が行われています。ホッパーに投入された廃棄物は、約8分でこのスプレッドまで到着します。

魚の棲家になるエコブロックって？
海中さんぽレポート②

泉大津沖埋立処分場の既存の垂直護岸を環境配慮型護岸(エコ護岸)に改良して自然環境を再生し、生物が生息できる環境を創造しています。

既存の垂直護岸の前面に、魚の隠れ家などになる中空ブロックを据付け、上面はかご枠の中に自然石を詰めてカニなどが棲息できる磯場を形成するものです。

エコブロックの設置から5か月が経過した平成19年8月の生物調査の結果では、エコ護岸周辺、ブロック内にメバルやクロダイなどの魚が多く集っている様子が見られました。



エコブロック



エコ護岸横



エコ護岸ブロック内



やま りょう へい
大阪市立自然史博物館館長 山西良平

■経歴

京都大学理学博士(学位取得)
昭和52年大阪市立自然史博物館学芸員
現在は大阪市立自然史博物館館長

■主な研究内容

多毛類(ゴカイのなかま)の分類学的研究
干潟の底生動物の分布に関する研究
大阪湾の環境と生物に関する研究

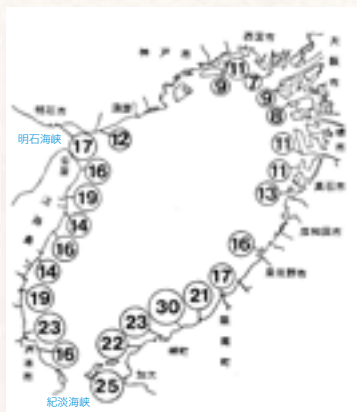
■役員・委員等

日本博物館協会理事、西日本自然史系博物館ネットワーク理事長、関西自然保護機構副会長、淀川環境委員会委員、大阪湾見守りネット副代表、大阪湾海岸生物研究会世話人

大阪湾は北東方向に湾入し、湾口を淡路島でふさがれた形状の閉鎖的な内湾で、紀淡海峡と明石海峡という2カ所の開口部を持っています。このために湾の西側は湾内を通り抜ける潮汐流の通り道になっていて、水深は30~70メートルと相対的に深くなっています。淀川水系、大和川、武庫川などの主要河川は湾の東部に集中し、大阪湾への流入河川水の9割以上がこの地域からもたらされています。このために湾の東側では河川に由来する土砂が堆積し、水深は20メートル未満で岸からは遠浅となっています。このように海底地形は東西で対照的です。

水質の面では紀淡海峡から暖流系外洋水の影響を、湾奥では河川水の影響をそれぞれ強く受けるために、南西・北東方向の軸に沿って大きな環境勾配が形成されています。このような地形や水理上の特質は、大阪湾に固有なものです。大阪湾は岩礁・砂・泥といった多様な底質と、黒潮から都市河川水までの両極端の水質を包含するさまざまな「顔」をもった海であると言えるでしょう。

私は大阪の博物館で海の生物を担当する学芸員として、地元の大阪湾をフィールドにしてきました。若い頃には、採泥器という道具を船から海底に降ろして泥や砂を採取し、その中の貝やゴカイを集めたり、底引網漁船に乗せてもらって有用魚介類と共に獲れるさまざまな動物を集めさせてもらったりしました。そのような経験を通じて、大阪湾の自然の豊かさを確信することができました。市民参加による泉南の岬町や和歌山市の加太方面の岩礁海岸のモニタリング調査は、1980年から現在に至るまで継続していますが、これまでに記録した海藻と動物は合わせて736種にのぼります。



図は今から20年以上前(1985年)に、大阪湾沿岸25カ所の消波ブロック上の付着動物を比較調査した結果です(今では海岸線が大きく変わっているので、もう一度同じ方法で調査して比べてみたいと考えています)。私自身が干潮時にそれぞれのポイントにアクセスし、海岸に降り立って観察しました。数字は記録された種数です。明らかに紀淡海峡に近い南部で種数が多く、湾奥では激減しています。一方、淡路島沿岸では減少傾向がそれほど著しくありません。この結果は、塩分などの水質勾配とよく一致しています。消波ブロック上で生活できるのは、もともと岩礁性の生物ですから、湾奥では塩分の低下に耐えられないものが多く、種数の減少がみられたのです。

しかし逆に、河口など淡水の影響の強い環境に出現する生物もたくさんいます。たとえば、干潟にはハクセンシオマネキという片方のハサミが雄で異常に大きくなるカニ(写真)がいます



が、このカニの場合、大阪湾ではここ10年ほどの間に記録が増え、今では湾奥の淀川河口、神崎川河口、大阪南港などに定着するようになりました。神崎川河口の場合は、震災によってあたらしくできた塩性湿地に進入してきました。このように、海の動物たちの多くはプランクトン幼生の時代に拡がって、適地を見つけようとする生活史戦略をもっています。

今やフェニックス計画を進めるにも生態系、生物多様性への配慮が求められる時代になりました。消波ブロックで固めるのではなく、湿地や浅場を残すなどの配慮をしようまく誘導してやれば、多様な生物の生息地を確保してやるができるでしょう。大阪湾の生物的自然のポテンシャルは高いと考えられます。

編集後記

私たちは、普段の生活の中で、地球温暖化や廃棄物問題などの環境問題を身近に感じるようになってきました。地方公共団体や企業などの団体が環境問題に取り組むことはもちろん、一人ひとりが環境にやさしい生活を心がけていくことが大切な時代となっております。

今回の第9号では、埋立処分場の護岸周辺の魚の自然環境を、エコブロックを設置して再生していることや、ごみが埋立処分されて土地としてよみがえることを紹介しています。

また、センターでは、環境マネジメントシステムの1つである「エコアクション21」の認証を、本社に引き続き、兵庫建設事務所でも取得し、大阪建設事務所も間もなく認証取得の予定となっています。

これからも、大阪湾圏域の環境保全・創造の取組みだけでなく、環境負荷の削減にも積極的に取り組んでいきます。

ご意見やご感想がございましたら、右記のE-mailアドレスまでお寄せ下さい。

(編集スタッフ一同)

i land fill Vol. 9

発行:  大阪湾広域臨海環境整備センター
(大阪湾フェニックスセンター)
<http://www.osakawan-center.or.jp/>

〒530-0005
大阪市北区中之島2-2-2 大阪中之島ビル9階
※平成20年1月1日から、ビル名称が「大阪中之島ビル」に変わりました。

TEL 06-6204-1721(代)
FAX 06-6204-1728

E-mail phoenix@osakawan-center.or.jp
i Land fill は当センターホームページにも掲載しております。



2008.03